

高知県教職員組合と高知県高等学校教職員組合が呼びかけた緊急フォーラムが、4月17日高知城ホールで開催され約80名の参加がありました。現地の様子を伝え、高知市在住の英語教師アリシアさんです。すでに200万人以上の避難民を受け入れているポーランドやウクライナの様子を日々現地とやり取りし、胸を痛める思いを語ってくれました。アリシアさんの報告は、ウクライナとロシアの歴史経過をふまえながら、ウクライナは1991年のソ連崩壊後90%の国民投票での支持を得て独立を果たしたこと。また豊かな資源環境にふれ「ウクライナは将来豊かな国になる可能性を持つ



飯田清久

**ロシアによるウクライナ侵略に抗議する緊急フォーラム！**

**武力による紛争解決は認められない**

た国、それを侵略で破壊しているのがロシアである」と指摘。続いてポーランドの避難民受け入れの状況について報告がありました。1日25000人のペースでポーランドに避難して行く人々に対してSNSを駆使して住む場所・必要な物・支える人など、支援の実際を紹介。さらには避難してきた子どもたちも教育の場をいちはやく提供し、言葉の壁を乗り越え4月6日現在で16万人が学校で学んでいる様子を伝えてくれました。また一方でウクライナからポーランドに避難し、子どもを預けて再び戦いのためにウクライナに戻っていく人々も多くいることにふれ、アリシアさんからお願ひとして「ウクライナへの支援を長期的に考えて」という強い訴えがありました。

「憲法は、私たちの生活に大きく関わっているもの、意識しづらいという点、意識しづらく思っています。誰かが説明していません。憲法が私たちの日常生活のどこで生かされているのかを真剣に考えることが今本当に求められている時だと思っています。」



林 博子

## 憲法への思い②

わけ心身ともに傷ついたり子どもたちの姿に胸を痛める日々です。「いかなる戦争も許さない」「武力による紛争解決は認められない」「核兵器は絶対ダメ」の声を大きく広げながら、ウクライナ支援に向けて私たちができるべきことがあらためて考えるフォーラムとなりました。

教職に就いて組合に入り、地域の人や他職の仲間と出会って、いろいろな活動に参加する中で、憲法が日々の生活と深く結びついているということを実感するようになってきました。不合理な仕組みに何もできない歯がゆさを感じた現職時代。保護者の生活のしんどさ。経済的な理由で部活動や進路をあきらめ、就きたい仕事に就けず非正規で働かざるを得ない生徒たち。奨学金

平和は平和な生活を基盤としてこそ保障されるもの

する人たちの絶望。あどけない顔で「外に出たい。うちに帰りたい」と話す地下室に避難して暮らす子どもたち。改憲勢力はウクライナのこの惨状を逆手に取り、武器がなければ国や国民は守れない、核共有を検討すべきだなどと、はなから戦争を肯定し改憲攻勢を強めています。メディアや国民を巻き込んだ「軍備は必要」論、「平和ボケ」攻撃に負けないように、武力による平和を訴え、暮らしの隅々に流れている憲法の精神を知り、学び、未来に託せる世代の一人になりたいと強く感じています。

「憲法そのものとも言える9条とともに25条の大切さを痛感します。『すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。』国はすべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」「最低限度の生活」とは「生きていければいい」というのではなく、すべての国民が文化的で豊かで幸福な生活を送れることを保障するとする憲法は素晴らしいものです。これまで憲法が世論や議論の中心になるときは、国民のいのちと暮らし、平和が脅かされているときだと強く感じます。『憲法への思い』投稿リレー第一走者飯田清久さんが書かれていたように、しっかりと学び、できるところから始めていきたいと思っています。



笑顔と笑顔で楽しいひととき 退職者を励まし新加入を祝う会

